

誰もが直感的に入力でき、正確な工事の収支管理も早いタイミングで把握できる！

株式会社東産業

<導入した製品>

どっと原価NEO EX



『地球をめぐる「水の循環」。大きく言えば、私たちの事業はその一環です。』
1964年の創業以来、三重県で当たり前になる水が使える日常を陰から支えてこられた東産業様。
排水施設・上下水道・浄化槽などの生活インフラの維持管理から、一般住宅の水回りメンテナンスまで、幅広い事業を展開されています。
暮らしに欠かせない“水のプロ”として、最近では住宅リフォームや新築など、「暮らしを支える」領域へ事業を拡張され、成長が続いています。

東産業様のロゴマークは、イニシャル「a」をモチーフにデザインされており、「理念」「人：誠実」「人：役立ち」をイメージした3つの渦です。

基本理念に基づくあらゆる企業活動を通して、社会創造に貢献すること、そして継続・成長・躍進を続けるという理想を表現されています。



導入前の課題

全社の業務を支えられている、工事部部长 平田拓也様、住環境事業部 次長 滝祐介様、経営管理部IT行務改善課 課長 藤井義博様の方々に、「どっと原価NEO」導入を検討された経緯や導入後の感想を伺いました。

－導入前は基幹システムを利用されていましたか？－

『「どっと原価NEO」を導入以前は、他社システムに多くのカスタマイズを加えて使用していました。』

－なぜ基幹システムの入れ替えを検討しようと思ったのでしょうか？－

『ランニングコスト(運用費用)が高いことや、操作が複雑なうえに、メニューや画面に馴染めないため、売上と原価の管理が出来ず、会計数値の精度が低いという問題を抱えていたからです。』

会社業務に合わせたシステム構築をするうちに、どうしてもコスト高になり、企業成長から、システムの操作感と業務のマッチングがズれてくることがあるようです。



プロフィール

株式会社東産業

- 業種：専門工事
- 売上高：10億～30億未満
- 作業員数：101人以上
- 利用形態：オンプレミス
- 住所：三重県四日市市
- TEL：059-332-2323
- URL：<https://www.azuma-mie.co.jp/>

導入後の効果・満足した点

—「どっと原価NEO」を導入をしようと思われたキッカケはなんですか？—

『運用に際して、問題の多い基幹システムを刷新するにあたり、財務会計ソフトの「勘定奉行」を主軸とする構想からスタートしました。基幹システム刷新検討する中で、「どっと原価NEO」を導入しようかと思えるキッカケが3つありました。』

- 1、基幹システムのランニングコスト(運用費用)が安かった。
- 2、直観的に触れるので、分かりやすかった。
- 3、勘定奉行とのデータ連携の面で相性が良かった。

東産業様が「どっと原価NEO」を導入後の感想を滝様と平田様に伺いました。

—「どっと原価NEO」を導入後に満足された点は何でしょうか？—

『過去の経費を参考に原価が登録できるようになりました。』

『当初は入力に手間取りましたが、感覚で触れるようになったので、数値の見える化が捗りました。』

『受注金額や売上金額の計上月が明確になり、社内の調整がスムーズにできるようになりました。』

『商品別の受注金額や売上金額、利益目標や利益金額が明確に見えるようになりました。』

『労務費・外注費・販管費などの経費を、部署別や商品別に仕分けできるようになりました。』

『仕入処理をしたタイミングで工事原価に反映されるため、未成工事の原価管理が明確にできるようになりました。』

誰もが直感的に入力でき、正確な工事の収支管理も早いタイミングで把握できるようになったようです。

どっと原価NEOに今後期待すること

—今後、「どっと原価NEO」に期待されていることやご要望をお聞かせください—

『営業支援システム、帳票作成システム、データ分析システム等と連携でき、タブレット等で紙媒体と同等レベルの情報確認ができるといいですね。』

『受注から完成までの進捗確認が見やすくなる機能追加を期待します。』

『集計表等のレイアウト作成の自由度が更に上がり、帳票出力の処理時間がもう少し早くなることを期待します。』

まとめ



導入前のお悩み

- ①基幹システムの運用費用が高かった
- ②基幹システムのメニュー画面や操作が複雑で馴染めなかった
- ③売上と原価の管理ができず、会計数値の精度が低かった

ニーズ

- ①基幹システムの運用費用が安かった
- ②直観的に障れるので分かりやすかった
- ③勘定奉行とのデータ連携の面で相性が良かった

導入後にご満足いただけました点

- ①受注金額や売上金額の計上月が明確になり、社内調整がスムーズになった
- ②商品別の受注金額や売上金額、利益目標や利益金額の工事原価の見える化が捗った
- ③部署別や商品別に労務費・外注費・販管費で経費を仕分けできるようになった